EDO-TOKYO MUSEUM 江戸東京博物館

EDO-TOMO えど友

No. 20

平成16年
2004
7-8

ホームページ〈えど友Web〉
http://www.edo-tomo.jp/

江戸東京博物館友の会会報

［特集］
友の会
総会

第4年度 要望に合った活動展開

―新「古文書講座」が開講、バスツアー見学会も実施―

竹内館長記念講演「寛政の改革と江戸」

江戸東京博物館友の会第4回・平成16(2004)年度定期総会は、5月28日(金)午後1時半から1階映像ホールで開催されました。

総会は柏木静会員の司会で開会、山本市郎会長のあいさつ(別掲)に続いて、来賓の山本新副館長、牧恵美子管理課普及係長から祝辞をいただいた後、議事に入りました。

議長団に清水良男議長(事業部会)、伴野睦雄副議長(同部会)、岡橋園子(広報部会)・藤井文乃(総務部会)両書記の4名が選出されました。

冒頭、清水議長から、本日の出席者は110名、議決権行使書提出者は539名の計649名で、総会招集通知発送者913名の過半数に達し、総会が成立したことが報告されました。

上程された議案は次の3件です。

1) 平成15年度事業報告ならびに収支決算報告および監査報告

2)友の会規約の一部改正

3) 平成16年度事業計画案ならびに事業予算案

各議案とも質疑応答を経て、採決は挙手多数によって可決承認されました。

本年度の事業計画は、古文書講座の拡充、セミナーの開催回数増、バスツアーを含む見学会の充実など、成果が大いに期待されます。

総会は午後3時少し前に閉会。休憩後、竹内誠館長による記念講演「寛政の改革と江戸」が行われました(別掲)。

午後5時からは会場を2階のレストラン「モア」に移して、会員同士の懇談・交流のときを過ごしました。

会員継続更新のお知らせ

●手続きはお早めに！

友の会は会員の皆さんで支えられています。会員資格は1年間です。まもなく有効期限を迎える方は更新の手続きをお願いします。

該当の皆さんには「継続手続き書類」が郵送されますので、お早めに手続きをお願いいたします。

＊更新しませんと、友の会活動への参加や会員特典を受けられなくなります。ご注意ください。

ハ・イ・ラ・イ・ト

- 2004年度友の会総会特集です。本年度も事業活動に積極的なご支援・ご協力をお願いします。
- 総会決議
  - ・平成15年度 事業活動報告
  - ・平成15年度 収支決算報告
  - ・友の会規約一部改正
  - ・平成16年度 事業活動計画
  - ・平成16年度 事業収支予算
- 館長講演「寛政の改革と江戸」
- セミナーなどの活動報告
  - ・5/25 セミナー「江戸の春を味わう」
  - ・5/31 内覧会「発掘列島2004」
- えど友プラザ 会員投稿のページ
- 「えど友サークル」をつくろう！
- 〈江戸博クリップ〉 館員エッセー
- [シリーズ] ミュージアムショップ名店めぐり〈12〉釣りしのぶ「萬園」
- 会議・会合日誌ー役員会など
- 《事業部会だより》
  - ・セミナー、見学会、新古文書講座
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション情報誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお気軽にお寄せください。

会長あいさつ

“花ある”友の会へ

友の会会長　山本 市郎

「神田川祭りの中をながれけり」と久保田万太郎が祭りで賑わう東京の古き町や川を懐かしんだ5月も早や終わろうという今日、多数の友の会会員の皆さまが第4回定期総会にご出席いただきありがとうございます。

昨年は江戸開府400年、開館10周年記念で、友の会にとっても忙しくもうれしい1年であり、来館者も多く、とても意義深い年でもありました。多岐にわたるセミナー、古文書講座、見学会、バスツアー、アンケート調査など、活発な事業活動が実施されました。

そして、博物館への研究資料の寄付なども行い、会の目指す博物館との協力関係の実の成果をあげられたのでは、と実感しております。

世阿弥の『風姿花伝』の言を借りますと「去年盛りあらば今年は花なかるべき事を知るべし」とありますが、友の会はそうではなく「今年も花あるべき事」にいたしたいと考えております。

総会資料のとおり、本年度もますます多方面にチャレンジする計画です。それも前年度にも増して会員皆さまの積極的なご参加がなければ達成できないことですので、ご理解ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

第3年度、多彩な事業に成果

―人気の古文書講座、好評のバスツアー―

（第1号議案）

平成15年度 事業報告

平成15年度は友の会活動の3年目にあたり、14年度に引き続き、活動の推進や組織の充実ならびに各部会間の連携を密にすることに一層努力しました。

15年度に各部会が実施した事業の概要は以下のとおりです。

■活動概況

15年度は当初の計画どおり、セミナー、古文書講座、創作講座、見学会、内覧会および共催事業など多岐に活動を展開して、多くの会員から有意義な参加を得ました。

また、大規模な会員実態調査を実施して、全会員の意見を活動に生かし、より良い成果が達成できるよう努力しました。このために多くの会員の充実感が得られるように事業・広報・総務の各部会が一体となって事業推進に努めました。

なお、開館10周年記念として博物館の研究資料に『大宅壮一文庫　雑誌創刊号コレクション』を寄贈し、館への協力表明を具体化しました。

■事業部会　別表のとおり

■広報部会

1.会報『えど友』は隔月で6回発行。情報量の増加、内容の充実に対応して、14年度は毎号8ﾍﾟｰｼﾞ建てでしたが、15年度は10ﾍﾟｰｼﾞ（第16号）、12ﾍﾟｰｼﾞ（第14、15、17、18号）と増ページしました。会報の評価は、15年7月に実施した100人（無作為抽出）アンケート結果で84%の満足度でした。

2.ホームページ「えど友Web版」は最新情報を提供し、新規入会の問い合わせやタウン紙からの取材申し込みなどで効果を発揮しました。前項のアンケートでの満足度は82%。また携帯電話普及に対応して16年1月に携帯サイトを開設しました。

3.『えど友PR版・入会案内号2003』（A4判、4ﾍﾟｰｼﾞ）を15年度初めに発行。入会促進ツールとして活用されました。

4.他の歴史系博物館との情報交流は足立区立郷土博物館友の会などと会報の交換を行っています。栃木県立博物館友の会から会報の合本、豊島区立郷土資料館友の会から画文集などの寄贈がありました。16年3月には文京ふるさと歴史館友の会を訪問して情報交換を行うなど、他館友の会との交流拡大を進めました。

■総務部会

1.15年5月28日開催の総会の準備と運営を実施

2.会報などの発送

3.内覧会の受付（事業部会と共同）

■事業部会

事業名	開催回数	参加者数	1回平均
友の会セミナー	5	366	73.2
古文書入門	全9回	756	84.0
〃　初級	全9回	714	79.3
創作体験講座	5	62	12.4
見学会	5	321	64.2
企画展内覧会	6	362	60.3
延べ数	39	2,581	66.2

4.入会ご案内パンフレットの作成で事務局に協力

5.3部会合同懇親会の開催

6.自主研修（ほうずき市、酉の市、節分行事など希望者で実施）

■その他

1.友の会実態調査の実施

15年9月、全会員を対象に活動の評価と期待を把握して、運営に反映させるため実施しました（回収率60.2%）。

担当は各部会員7人で構成の「2003ワーキンググループ」。概要は会報『えど友』第18号（2004/3）に掲載しました。

2.会員状況

時点	新規会員	継続会員	計	継続率（対前年度）
14年3月末	826	0	826	—
15年3月末	298	574	872	69.5%
16年3月末	304	658	962	75.5%

平成15年度 収支決算報告

別表 収支決算書のとおり

平成15年度 監査報告

別表 監査報告書のとおり

本年度の事業計画・予算決まる

―意見、要望を活動に反映―

（第3号議案）

平成16年度 事業計画

■基本方針

事業活動へ、多数の参加を

友の会発足3年目となった前年度は、開館10周年・江戸開府400年の記念すべき年でもあり、非常に多くの事業が実施され充実した1年でした。本年度も博物館は昨年度に引き続き活況を呈するものと思われますので、友の会活動のなお一層の充実はもとより、効率的な運営にも努めたいと考えています。

本年度は友の会実態調査の結果を踏まえて、次の事項を基本的な活動方針とします。

1.会員の意見・要望をより一層吸い上げ、活動に反映し、会員が自覚できるよう活動の充実を図ります。
2.会員の継続増強を図ります。
3.博物館の協力のもと、自主的事業展開体制をつくります。
4.計画事業への、より多くの会員参加を図ります。
5.会員相互のコミュニケーションを図る機会をつくります。

■事業部会

古文書講座、見学会を充実

本年度はセミナー、古文書講座、見学会、内覧会――の事業を柱とします。とくにニーズの高い古文書講座は、入門編と初級編(1)(2)を開講します。また、前年度好評だったバス旅行見学会を本年度も実施します。

別表 事業活動計画(概要)のとおり

■広報部会

会員の参画、投稿を促進

1.会報「えど友」は隔月で年6回発行します。読みやすく親しみやすい会報を目指し、一層の内容充実を図るため会員の積極的な参画、投稿の呼びかけなどを行います。また、会報の送付先を新聞・雑誌社、図書館などに拡大し、友の会のPRに努めます。さらに、版下作成作業について将来の外注化を検討します。
2.ホームページ「えど友Web版」で最新情報を提供して効果を発揮していますが、さらにきめ細かなページ更新を実施します。そのため、ホームページ・サイトの容量を増やし、対外的なメディアとして友の会活動の広報を進めます。
3.『えど友PR版・入会案内号2003』を改訂し、2004年版を発行します。新規会員加入促進のために、PR版や「入会ご案内パンフ」の来館者向け配布を、各部会と共同で実施します。
4.他の歴史系博物館友の会との情報交流は、他館友の会を順次訪問し、会報で紹介します。

■総務部会

友の会サークル活動を推進

前年度と同様に、総会などの運営、広報印刷物の発送業務、新規会員増大など、部会員の積極的な参加で友の会活動の一角として、他部会と協力しながら活動していきます。とくに、前年度のアンケート結果を参照し、新規部員を募集します。

1.総会の運営
2.館の行事(内覧会、特別展など)の受付
3.各種発送業務(会報、博物館ニュース、その他)
4.新規会員の募集活動
5.友の会サークル活動の推進
6.自主研修

（第3号議案）

平成16年度 事業予算

別表 事業予算書のとおり

監査報告書(謄本)

江戸東京博物館友の会規約第7条の7項の規定に基づき、私たちは平成15年4月1日から平成16年3月31日までの平成15年度友の会活動の執行を監査しました。その結果を以下のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要
監事は、役員会その他重要な会議に出席するとともに、運営委員等から活動の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、活動の運営並びに収支に関する会計帳簿・証憑等の調査を行い、収支決算書類の内容について検討しました。
2. 監査の結果
(1)事業活動報告は、目的に従い、活動の状況を正しく示しているものと認めます。
なお、活動内容でホームページの開設は友の会の充実化と評価に大きく貢献しました。さらに全会員に友の会実態調査が実施され、会員各位の意向が理解できたことは、本年度の特筆すべき事項です。
今後の活動において実態調査結果を反映し、多くの会員の期待に応えるべく、事業活動のさらなる充実を期待したいものです。
(2)収支に関しては、会計伝票・帳簿類は、記載すべき事項を正しく記載し、収支決算書の記載と合致しているものと認めます。
(3)収支決算書は会計原則に則り収支の状況を正しく示しているものと認めます。
(4)友の会役員の職務遂行に関する不正行為又は、法令もしくは友の会の規約に違反する事実は認められません。

平成16年4月23日

江戸東京博物館友の会
監事　大谷善四郎㊞
監事　川島　幸雄㊞

友の会規約改正

―役員推薦、部会設置を明確化―

（第2号議案）

友の会規約の一部改正

友の会規約は設立時の平成13年1月に制定され、その後、14年5月に一部改正されました。今回は役員・監事の選出・選考関係条文の明確化、部会設置の条文追加などで大幅な改正です。

条文は改正規約の要約抜粋です。

***

第3条（性格・目的）「会員が友の会事業のために行う活動は無償とする」を追加（無償の意味は「当該会員の役務提供への対価」に関してであることを役員会で確認）。

第4条（事業等）「自主サークル活動支援」を追加。

第7条（役員および監事の選出と職務）「役員定数は15名以内とする」「役員会は互選で役職を決める」など。

第7条2（選任）「選考は会長委嘱の10名以内で組織する『役員等候補者推薦委員会』で推薦する」など。

第7条3（職務）「副会長の会長代行は定めた順序とする」、「後任役員の任期は前任者の残余期間とする」「後任者就任まで職務を行う」など。

第8条（総会および役員会）「総会の表決は、欠席者は通知された書面（議決権行使書）の提出、または代理人への委任で行う」など。

第9条（部会の設置）「役員会の議決で部会を置く」など。

平成16年度 事業活動計画（概要）

2004/5/7現在　事業部会、広報部会
（注）内容は変更になる場合があります。

年	月	会報号	友の会セミナー	見学会	古文書講座［ ］数字は講座期			企画展 特別内覧会
			テーマ/講師	テーマ/講師	入門	初級1	初級2	テーマ・会期
平成16（2004）	4				＊古文書講座講師＝小宮山敏和、西村慎太郎、小松賢司（各講師とも学習院大学大学院史学専攻）			4/3　NHK「新選組！展（4/3-5/23）
	5	19	5/25　江戸を食する春（田中学芸員、モア共催）					5/31「発掘日本列島2004展」（6/1-7/7）
	6			6/26 江戸四宿「品川宿1」	［1］6/2	［1］6/30		
	7	20					［1］7/31	7/17「エルミタージュ美術館展」（7/17-10/17）
	8		8/13　中世の江戸・道灌と江戸城（専修大講師・館鼻誠）		［1］8/11	［1］8/25	［1］8/28	
	9	21	9/19　江戸と上方～その暮らしと文化（葛西聖司・NHKエグゼクティブ・アナウンサー） 9/28　伊能家から見た伊能忠敬（伊能忠敬研究会・伊能陽子）	9/5　常設展「大江戸歌舞伎・能」 9/?　大相撲史跡探訪1	［1］9/8	［1］9/22	［1］9/18	
	10		10/2　小説になった樋口一葉（仮題）（近畿大・井上謙） 10/16　江戸を食する「秋」（田中学芸員、モア共催）	10/?　バス旅行「小江戸佐原めぐり」	第2期全3回予定	第2期全3回予定	第2期全3回予定	
	11	22	11/3　昭和天皇の料理人（元宮内庁厨司・谷部金次郎） 11/17　江戸東京の狛犬（日本狛犬研究会・三宅稜威夫）					11/?　「大（Oh!）水木しげる展」（11/6-1/10）
	12		12/5　天皇の鷹匠（日本放鷹協会・田籠善次郎） 12/12　八百善の四季「おせち料理」（八百善10代目当主・栗林善次郎）					
平成17（2005）	1	23	1/23　江戸天下祭（関東山車祭研究会・作美陽一）		第3期全3回予定	第3期全3回予定	第3期全3回予定	1/?　「エミール・ガレ展」（仮称）（1/22-4/3）
	2		2/?　東海道五十三次の成立と役割（鉄道文学会・川口順啓）					
	3	24		3/? 常設展「火消年代記」 3/?　大相撲史跡探訪2 3/?　江戸四宿「千住宿1」				

江戸東京博物館友の会総会 記念講演要録(2004/5/28)

寛政の改革と江戸

江戸東京博物館 館長 竹内 誠

天明の打ちこわしと定信の登場

寛政の改革は、天明7年(1787)老中になった松平定信が中心となって行われました。定信は吉宗の孫であり、将軍候補に目されていたほどの人物です。田沼意次失脚後も田沼派の反対があって、10ヵ月間も老中の座につけませんでした。

田沼派の重役の失脚は、天明7年5月20日から24日までの5日間にわたる打ちこわしの直後に次々と起きています。打ちこわしは昼夜となく続き、江戸時代最大の"都市打ちこわし事件"となり、参加者は5,000人とも言われています。

しかし、意外に統制のとれたものでした。目指したのは悪徳商人だけ、盗みはしていません。これを鎮圧したのが長谷川平蔵です。

杉田玄白が『後見草』に「この度の騒動無くば、御政治は改まるまじく」と書いているように、民衆の力を背景に政権交代が行われたのです。民衆の力が政権を動かしたのは、江戸時代この1度だけです。

民衆の怖さを知っていた定信

定信は民衆の恐ろしさを知りました。押さえなければ自分の地位も危ぶまれます。そのため改革の重要な政策目標を、江戸の貧民を少なくして、飢餓に備えるための米を蓄えておくことにおきました。

当時の江戸は、地方から食い詰めて出てきた無宿人が多くいました。この無宿人を石川島の人足寄場に送り、油搾りなどの技術を身につけさせ、真面目に働いて、身元引受人があれば江戸に住むことも許しました。

また一般に、地方出身者に旅費を出して村へ帰らせる方策も行っています。農村も人手不足でしたから、この政策は非常に意義深いものでした。これが寛政2年(1790)の旧里帰農奨励令です。

江戸豪商とも手を結ぶ

田沼は商人との結託に力を入れ、都市型政策を行い、定信は商人を遠ざけ、商業資本を弾圧し、農村政策に力を入れたことになっています。しかし、一般商人の弾圧は行っていますが、江戸の財界とはしっかりと手を結んでいたのです。

豪商の大半が、江戸に支店を持った上方商人で、江戸の経済は上方が牛耳っていたのですが、定信は豪商、それも主人が江戸に住んでいる江戸豪商を仲間に引き入れました。政策を出した時の援助を頼んだのです。この金で定信は次々と改革を行いました。

こうして天明8年(1788)10月、勘定所御用達に江戸豪商10人が選ばれました。その多くが両替商で、他には酒屋と油屋です。この勘定所御用達は幕末まで常置されました。その意図は、分限に応じて出金させるためであり、富豪の大きな資本と手腕を利用して、一般商人の自由な活動を統制しようとしたのです。

大事だった米価の調節

米価の調節は、幕府にとっても武士にとっても重要でした。米一石で金一両というのが武士の理想でした。武士は食べる分を残して、蔵前の札差で換金しました。米の値段が下がると武士の収入も減ってしまいます。幕府にとっても米の値段は大きく影響しました。

一般的に江戸時代の多くは豊作で米は余っていました。大きな飢饉は享保、天明、天保くらいです。ふだん幕府は、米価引き上げ策をとります。

米の値段が下がると幕府は酒造業者に対して、より多く醸造するように命じます。市場から米が減り、値段が上がります。また、勘定所御用達に、安い米を買わせて蔵に封印させます。値段が上がったところで封印を解かせ、蔵から出して売らせる、という方法をとったのです。

札差棄捐令と七分積金令

寛政元年(1789)の札差棄捐令(きえんれいい)にともなう旗本や御家人の借金棒引きにより、困窮した札差への公的資金の投入など、今と同じようなことが行われています。その際、勘定所御用達の資金が利用されました。

また寛政3年(1791)7月の七分積金令に基づき、町会所が設置されました。窮民救済と低利融資を目的としたもので、江戸の家持や地主が負担している町の入用金を節約して、その70%を町会所に積み金し、不時の災害に充てるというものです。この積金運用も勘定所御用達にまかされました。

これは幕末まで運用され、明治初年に貯蓄高は143万円に達しました。これで東京の都市基盤の整備、教育、社会福祉事業の推進がされたと言っていいでしょう。

田沼政治と寛政の改革は、水と油ほども違うと考えられていましたが、商人と結託しながら政策を実施するなど、田沼政策を継承している面が多いのです。

【記録】文:広報部会・岡橋園子、写真:同・斉藤美香子

第17回江戸東京博物館友の会セミナー(2004/5/25)

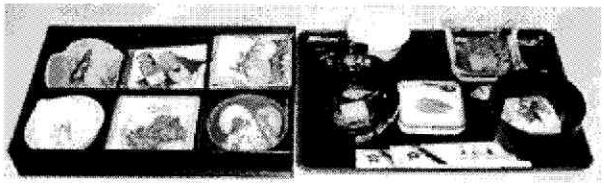
江戸を食する“春”

―天保時代のお祝いごとの食事―

講師:江戸東京博物館学芸員・田中実穂さん
調理指導:国立劇場「十八番」調理長・井出源一郎さん

江戸時代の、なぜ天保期(1830-44)の料理なのでしょうか――。江戸料理がこのころに完成を見たからです。水野忠邦の改革が行われ、倹約令が出され、飢饉も起こっていて、天保期は文化・文政期に盛り返した勢いが落ち、そのまま幕末の混乱に流れ込むという、やや暗いイメージがあります。

しかし一方で、『近世風俗志』(1837-)には、江戸市中の食事が豪勢になってきて、調理技法も上方をしのぐようになった、と記録されています。その背景には、ただ調理技術が向上しただけでなく、上方に頼っていた上等な食材が、江戸近くの産地でも発達、それを運ぶ流通網が充実した事実を見逃せません。



再現!天保期の祝い膳　左は刺身、煮しめなど、右はこけらずし、吸物など

江戸時代の日常のおかずは、焼いたイワシとか、きんぴらとか、たくわんといったもの。それも、イワシなどの動物性タンパク類は1ヵ月に1度という例すら記録に見られます。

その代わり、正月、雛や端午の節句、菊の節句などには、1汁3菜に何か付け足す、というようにメリハリを付け、暮しの変化を楽しんでいました。とはいえ、この日に出されたお祝い料理は、長屋暮しの人達には一生お目にかかることのなかった贅沢な献立、というのが、学芸員・田中さんの話でした。

次に調理長の井出さんから料理とその作り方の説明があり、活発な質疑応答が行われました。レシピの印刷物も渡されているので、献立のいくつかは家庭でもできます。

終了後、参加者5、6人に聞いたところ、満足感があったと概して評判はよく、次回も参加したいと異口同音の声でした。ただ、揚げ物は江戸時代のように菜種油を使ってほしい(サラダ油を使用)とか、現代人の口に合うよう薄味で甘い味付けになっていたが、江戸時代に忠実な味付けを望む、という声もありました。

【取材】文:広報部会・大野晴美、写真:同・菅沼和男

江戸東京博物館友の会 特別内覧会(2004/5/31)

発掘された日本列島2004

―新発見考古速報 展―

特別内覧会が5月31日(月)に開催されました。今回は開会時刻が早かった(15時)ためか、参加者はいつもより少ないようでした。ホールでまず主催者として、文化庁の木曽功文化財部長、江戸東京博物館の竹内誠館長、実行委員会の藤本強会長(国学院大学教授)からあいさつがあり、会場に移動して見学に入りました。

以前の発掘ブームも少し沈静化していますが、群馬県吉井町「中原Ⅱ遺跡」の埴輪群は会場入り口近くにレイアウトされていてまず圧倒されますし、福岡県那珂川町「安徳台遺跡」の巨大な甕棺を踏み台の上からのぞき込むのも格別な気分で、発掘者の興奮をそのままに感じられます。考古学は、近年は、古代・中世・近世と、扱う範囲が広がり、中世東北地方の「十三湊遺跡」、伊豆の利島の平安時代祭祀遺跡、近世の「大坂城跡」などの発掘は今後も目が離せないと思いました。

この速報展も今回は、第10回目で、10周年特集「あの遺跡の今」として、有名な「三内丸山遺跡」をはじめ、蒙古襲来の「鷹島海底遺跡」、江戸時代大名家の跡「汐留遺跡」などのその後が展示されています。旧石器の遺跡は、新しい発掘として岩手県山形村「早坂平遺跡」と岡山県八束村「東遺跡」があり、「あの遺跡の今」で新潟県「津南・中里遺跡」が紹介されています。

長野県岡谷市の「丸山遺跡」から長さ20cmの石製矢柄研磨器がほぼ完全な形で出土し、考古学者はその大きさに驚いたようです。これは研磨具と名付けるべきです。そして縄文人が、矢の飛翔体としての性能に重大な関心を持っていたことこそ、注目すべきと感じました。

平安京跡では江戸時代の天秤工房が発掘されています。それなら天秤に必要な分銅はどこで作っていたのでしょう。発掘の結果の解釈は考古学者まかせではなく、この展示を見た人々がそれぞれに考察し、問題提起してゆくことが必要なのではないかと感じました。会期6/1-7/7。

【取材】文・写真:広報部会・佐藤幸彦

えど友プラザ

友の会会員のページ

●最新情報は、パソコンや携帯電話で！
ホームページ〈えど友Web〉。友の会の最新情報、お知らせ、活動予定や会報〈えど友〉のバックナンバー（Web版）もご覧になれます。携帯電話サイトも開設！　活動案内などを掲載。
アドレスは、http://www.edo-tomo.jp/

都心の川を舟遊する

大松 胴一

過日、神田川・日本橋川を船で巡る機会を得た。船といっても小さな釣舟である。それでも潮の干満によっては屋根が橋げたにつかえたり、船底をこすってしまうような難所があるという。

柳橋からまずは神田川をさかのぼっていく。「川」とはいうが、このあたりは外濠である。江戸城北面の防衛と市街を洪水から守るために、元和6年（1620）に仙台藩の手で開削され、さらに万治2年（1659）には拡幅されて、通船が可能になった。お茶の水近辺の深い谷はその労にちなんで「仙台堀」と呼ばれるが、講武所の書生たちは景観のよさを賞して「茗渓」とか「小赤壁」としゃれた。船から（お茶の水橋からも）見ると、岸辺は万緑萌え出て美しく目を洗ってくれる。都心には貴重な空間である。

水道橋のやや下流には神田上水の掛樋が渡されていた地点がある。広重も北斎も江戸の名所としてこの掛樋を描いた。上水が廃止になった明治34年（1901）に掛樋は取り壊され、いまではその痕跡も見られないが、外濠通りに記念碑が置かれている。

橋の上手には「市兵衛河岸」があった。かつてここから飯田橋にかけては河岸が連なっていて出船入船で大いに賑わったという。東京ドームの地に「東京砲兵工廠」なる一大兵器工場が設けられたのもこの水運の便によっている。

さて、小石川橋で船は左折し日本橋川に入る。ここから堀留まではむかしは陸地だったが、明治26年（1893）に新たに開削されて通船できるようになった。飯田橋に甲武鉄道のターミナルが設けられたからだ。

小石川橋から江戸橋まで川の上部は高速道路で覆われている。ビルにもはさまれて陽がささず、陰鬱な景色がつづく。とはいえ、一ツ橋あたりには江戸時代に築かれた石垣が短区間だが残されていて、興味をわかせてくれた。工事を受け持った石工たちのマークが刻まれた石も見える。日本橋の外壁も陸からでは見られないが、船から見ると美しい彫刻が施されていた。江戸橋、鎧橋、茅場橋と過ぎ、豊海橋から隅田川に出て、ふたたび柳橋に戻った。

江戸明治の歴史の片鱗や舟運の賑わいなどを思いながら、現在の川の姿に嘆息もし、しかし興味深い経験を満喫できた2時間であった。

江戸博クリップ

新しい都市歴

都市歴史研究室長

小澤（おざわ） 弘（ひろむ）

江戸東京博物館に勤めて5年目に入った。この間に日本の博物館や美術館をとりまく経済状況の厳しさにより、経済効果という尺度で博物館評価をするという大きな渦へと急速に引きずり込まれた。従来の博物館運営ではダメというのである。都市歴史研究室も、当然その大きな波にさらされている。そこで本年度は、当館所蔵品の「資料との対話」を中心とした歴史・生活文化・都市構造の系列研究を開始した。

これにより、貴重な資料へスポットライトをあて、まとまった資料群の展示や情報提供などへの活用を促進することができると考える。

研究報告書や資料集の刊行とともに、来館者サービス重視の「江戸博ブックレット」刊行も開始した。これは江戸東京に関するテーマをわかりやすい小冊子としたもの。一方で、10月より都民に向けて新しいアカデミックな講座を低廉な料金で増設するため、目下その準備中。また研究成果を、わかりやすい形に置き換えて行くことも課題の一つ。シミュレーション化、3D化、Web情報化などもその例であるが、すでにいくつかの試みを行ってきた。これを今年はスタッフとともに大きく推進させたいと考えている。博物館は「未来への文化遺産」の伝達機関であるとともに、ひろく社会教育の場でもある。小中高生はもちろんのこと大学生などの次世代を担う若い人びとに、博物館への来訪と活用をもっと大きく働きかけなければならないと強く思う。課題は多いが、少ないスタッフで、ひたすら前進あるのみ。

◆このコラムは教授、学芸員が執筆しています。

あなたも手をあげてみませんか！　さあ、つくりましょう！

えど友サークル

最近、いろいろな同好の士が集い、楽しんでいるニュースが新聞・雑誌などでみられますが、そんな新しい楽しみを自分も味わってみたいと思っておられませんか。

この友の会会員の中にも種々の趣味・趣向をお持ちの方で、仲間を募ってともに楽しみたいと思っていらっしゃる方も多いのではないでしょうか。そんな方々のために友の会として「えど友サークル」という"器"を用意することといたしました。

サークルってな〜に？

「えど友サークル」とは、江戸東京に関連する特定のテーマに関心を寄せる同好のメンバーによって構成する少人数のサークルで、友の会としての全体事業以外に会員同士で楽しむ場を提供しようというものです。

いうならば、あなたが手をあげて「この指とまれ！」と言ってサークルをつくることに友の会が支援していこう、というものです。

どんなテーマなの？

たとえば、

「江戸城の門を調べつくす会」
「江戸東京芸能地図を歩く会」
「楽しく落語を聴く会」
「東京の温泉につかる会」
「能・狂言を見る会」
「江戸料理を賞味する会」
「東京の区境をコツコツたどる会」
「東京の七福神をめぐる会」

……などというのはどうですか。

もちろん、すべての会員は所定の手続きを経ればこのサークルを設立することができますし、また、いずれかのサークルに参加することもできるようになります。

サークルを作るには？

まずは多くの方に手をあげていただくことを期待しております。

手をあげてみようという方は、事務局に郵便かFAXで「サークル設置のための関係書類」をご請求ください。折り返しこれらの書類および設置のためのガイドラインをお送りいたします。

担当は、総務部会です。

投稿を大募集中！
〜テーマは自由、お気軽に〜

皆さんからの投稿を大募集しています。
テーマは江戸・東京に関連したものならご自由です。身の回りや町の話題、趣味や関心事、疑問質問。また、友の会事業のセミナー、見学会、講座、内覧会のご感想やご意見なども結構です。お気軽にご寄稿ください。

○●○

◆投稿要領——随時掲載します。
短文（表題も）を、手紙かハガキ、HPからメールで投稿。イラスト・図版や写真も歓迎。採用分には記念品進呈。応募締切：毎月末日。会員番号、〒住所、氏名、年齢、電話番号を明記。友の会事務局「投稿」係あて。

会報の刷新、誌面づくりに
あなたのアイデアや編集企画、
作品などをお寄せください。

◆

- こんな会報にしたら、という誌面づくりへのアイデアや企画提案
- 取り上げたい記事や紹介したい事柄、興味ある取材先
- あなたが手がけた、絵画、イラスト、写真、手工芸品などの紹介
- あなたが作られた、詩歌、短歌、俳句、川柳などの作品提供
- あなたが研究や調べている事例の研究内容や成果の掲載

[お問い合わせ] 事務局・広報部会あて、またはHPからメールで。

江戸東京博物館ミュージアムショップ **名店めぐり〈12〉**

涼を呼ぶ、釣りしのぶ「江戸川萬園」

各地で4月の観測史上の最高気温を塗り替えた22日に、江戸川区の深野晃正さんの仕事場「江戸川萬園」(よろずえん、同区松島1-32-11)を訪ねました。

昭和16年(1941)生まれの深野さん、「釣りしのぶ」を作り続けてかれこれ50年近くになり、職人技を受け継いでいます。そもそもはお祖父さんが昭和10年(1935)3月に始められたそうですが、当時は「釣りしのぶ」だけを作っていたわけではなく、菊や松葉ボタンなどの草花の栽培も手がけていたとのことです。

「釣りしのぶ」は江戸の中期ごろ、庭師たちが自分で配る、今でいうお中元用に腕を競っていろいろな形を作り上げたらしいのです。現に、ここにも昔ながらの井桁(いげた)、灯篭(とうろう)、筏(いかだ)だけでなく、現代風に工夫され卓上にもかざれる井戸形や木にぶら下がる猿を模した「釣りしのぶ」が市場への出番を待っていました。

「釣りしのぶ」の材料の主役はしのぶ草と苔(こけ)です。「しのぶ草は山の岩肌に生息し、昔は秩父近辺で良く採れましたが、今では群馬県や岩手県まで足を伸ばして、採集業者に頼んでいます」と聞いて驚きました。全盛時には炭俵につめて400貫(約1.65トン)も送られてきて、その半分を同業他社に分けたこともあった、とか。環境破壊と高齢化の影響は苔にも及び、原材料の入手難が何とも頭の痛いところだそうです。

下町では、夏が近づくと家の軒下に

下町の夏の風物詩「釣りしのぶ」を作る江戸川萬園・深野晃正さん

下げられて、江戸風鈴の音とともに暑さを忘れさせてくれます。浅草寺の境内で開かれる「ほおずき市」(7月9、10日開催)や「お富士さんの植木市」で親しまれている浅草浅間神社の植木市(5、6月の最終土、日曜日開催)で買い求めたものでしょうか。

丹精込めた「釣りしのぶ」が、この2つの市に出荷されますので、みなさんも求められたらどうでしょうか。簡単な手入れで2〜3シーズンは楽しむことができるそうです。

【取材】企画:広報部会・岡橋園子、文・写真:同・菅沼和男

会議・会合 日誌
2004/4/1〜5/31

◆博物館・友の会連絡協議会

5/19(水) 13時から開催。博物館側から10周年記念品へのお礼と「館と友の会は切っても切れない関係であり、できるだけの助力をしたい」とのあいさつがあり、友の会側から15年度活動報告、16年度活動計画などの概要を説明し、相互協力を確認した。出席者は博物館から山本副館長、北岡管理課長、友の会から山本会長以下役員8名。

◆役員会

4/8(木) 18時から開催。立ち上げ以来事務局担当の岩城紀子さんが異動、後任に平方正昭さんが4月1日付で着任し紹介された。その他、総会の日程などを協議。出席9名。

4/18(日) 14時から開催。15年度決算・16年度予算案が会計から報告・討議、規約改正案を逐条審議し、総会提案を取りまとめた。出席10名。

4/23(金) 18時から、岩城さん・平方さんの歓送迎会を新規開店の7階「ごはんや隅田川」で行った。出席8名。

4/27(火) 18時から開催。総会議案書案を協議し決定した。出席9名。

5/16(日) 14時から開催。総会準備スケジュールと作業分担、役割分担などを打ち合わせた。出席10名。

◆事業部会

4/18(日) 11時から開催。16年度事業計画などを協議。また、黒瀬雅博さんの勤務先転勤で後任部会長に玉木達二さんを選出した。出席13名。

5/16(日) 11時から開催。5、6月事業を確認、担当決定、7月以降計画を協議。出席16名。

◆広報部会

4/28(水) 16時から開催。「えど友」第19号の反省、第20号の内容と分担、16年度活動計画を協議。出席8名。

5/21(金) 16時から開催。「えど友」第20号進捗確認や16年度活動計画の担当などを協議。出席7名。

◆総務部会

4/6(火) 18時から「江戸博ニュース」などの発送作業。出席8名。

4/27(火) 18時から「えど友19号」などの発送作業。出席9名。

5/8(土) 総会召集通知、議案書などの発送作業。出席9名。

事業部会だより

これからの友の会活動ご案内です。
＊参加申し込みをされた方は、やむを得ない事由のほかは、ご欠席されないようご協力ください。

講座受講申込方法

お申込は通常ハガキで

●通常ハガキでお申込ください。折り返し受講票をお送りします。当日ご持参の上、受付で登録ください。事前申込みがないと受講できません。必ず申込みをしてからご参加ください。

▼申込方法：
通常ハガキに①開催日、講座名②会員番号③氏名（同伴者は連記）④〒住所⑤電話番号を明記。友の会へのご意見・ご要望もどうぞ。
・各講座ごと、会員1人1通。
▼申込先：130-0015東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館友の会事務局あて
▼締め切り：各講座案内を参照（必着）

特別観覧会

友の会だけの単独開催です！

企画展「エルミタージュ美術館 展 ～エカテリーナ2世の華麗なる遺産～」

・開催日時：7月17日（土） 18:00（受付開始 17:30）
・申込締切：7月10日（土）必着
・会場：江戸東京博物館・1階会議室／企画展示室
・同伴者：2名まで可（ハガキに氏名連記）
・参加費：1人500円（会員・同伴者とも、当日払い）

◆文化都市サンクトペテルブルグのエルミタージュ美術館のコレクション、とりわけロシア美術の黄金時代といわれるエカテリーナ2世に関わる名品をとおして、18世紀ヨーロッパの歴史ロマンを紹介。
◆会期 7/17（土）～10/17（日）
月曜休館（月曜が休日のときは翌日休館）

友の会セミナー

第18回「太田道灌と江戸城 ～戦乱と飢饉の関東を駆ける」

講師 舘鼻 誠さん（専修大学文学部講師）

・開催日：8月13日（金） 18:00～20:00 ・申込締切：8月3日（火）必着
・会場：江戸東京博物館・1階会議室
・定員：100名 同伴者可（ハガキに氏名連記）
・参加費：会員200円、同伴者500円（当日払い）

◆山吹の里の伝説や江戸城を築いた武将として知られる太田道灌。しかし、その実像は余知られていません。関東の政治状況や父・道真の足跡もまじえながら、戦乱と飢饉の時代を生きた太田道灌の実像に迫ります。
◆講師略歴：たてはな・まこと
1956年東京生まれ。立教大学大学院博士課程修了。専修大学文学部講師。
・企画責任担当：藤永昭彦（事業部会）

見学会

第10回「常設展を見る ～大江戸歌舞伎と能」

・開催日：9月5日（日） 13:00～17:00 ・申込締切：8月24日（火）必着
・会場：江戸東京博物館・5-6階常設展示室
・定員：30名 同伴者可（ハガキに氏名連記）
・参加費：会員は無料、同伴者は常設展観覧料（2割引）

◆常設展をガイドしながら、各々のテーマでスポット解説を行います。江戸ゾーンでは阿国歌舞伎・若衆歌舞伎・野郎歌舞伎、将軍・大名・町人の能を解説。東京ゾーンでは歌舞伎100年史を解説します。

・企画責任担当：黒瀬雅博（事業部会）

一般公開セミナーです。お友だち、
お知り合いの方もご一緒にどうぞ！

友の会セミナー

第19回「江戸と上方 ～その暮らしと文化」

講師　葛西 聖司さん（NHKエグゼクティブ・アナウンサー）

・開催日：9月19日（日）14:00～15:30　・申込締切：9月7日（火）必着
・会場：江戸東京博物館・1階ホール
・定員：400名　同伴者可（ハガキに氏名連記）　＊今回は一般者も入場可
・参加費：会員200円、同伴者・一般者500円（当日払い）

◆NHKアナウンサーとしてご活躍中の葛西聖司さんに1年ぶりに登場いただきます。今回は江戸と上方の歌舞伎と文楽を中心にして、地域による気風や芸の違いを海老蔵襲名と藤十郎襲名を織り交ぜながらお話いただきます。

◆講師略歴：かさい・せいじ
1951年生まれ。中央大学法学部卒業。NHKエグゼクティブ・アナウンサー。山梨英和大学非常勤講師、日本体育大学非常勤講師。

・企画責任担当：大倉和寿（事業部会）

古文書講座

平成16年度の古文書講座は「入門編」、「初級編（1）」、「初級編（2）」の3講座になります。
受講方法は、「入門編」の参加は自由です。
「初級編（1）」と「初級編（2）」はほぼ同レベルですので、初級編への参加は1講座のみとさせていただきます。
「初級編（1）」または「初級編（2）」のどちらかを選び受講してください。
◆今まで継続で受講されている方も、今回は締切日までに希望講座名を明記し、応募をお願いいたします。

●入門編 第1期

・開催日時・会場　~~第1回　6月 2日（水）14:00～16:00　江戸博・1階会議室~~ ［終了］
　第2回　8月11日（水）14:00～16:00　同　・1階学習室1・2
　第3回　9月 8日（水）14:00～16:00　同　・1階会議室
・講師：野尻泰弘さん（学習院大学大学院史学専攻）
・参加費：全3回 1,000円（初回当日払い）　・申込締切：~~5月18日（火）~~［終了］

●初級編（1）第1期

・開催日時・会場　第1回　6月30日（水）14:00～16:00　江戸博・1階学習室1・2
　第2回　8月25日（水）14:00～16:00　同　・1階学習室1・2
　第3回　9月22日（水）14:00～16:00　同　・1階会議室
・講師：小宮山敏和さん（学習院大学大学院史学専攻）
・参加費：全3回 1,000円（初回当日払い）　・申込締切：~~6月15日（火）~~［終了］

継続受講者も、新規申込ください。

●初級編（2）第1期

・開催日時・会場　第1回　7月31日（土）14:00～16:00　江戸博・1階会議室
　第2回　8月28日（土）14:00～16:00　同　・地下1階D会議室
　＊第2回は都合により、日時、会場が変更になる場合があります。
　第3回　9月18日（土）14:00～16:00　同　・1階会議室
・講師：小松賢司さん（学習院大学大学院史学専攻）
・参加費：全3回 1,000円（初回当日払い）　・申込締切：7月13日（火）　必着

新講座開講!!

【訂正】第19号（5/1発行）5ページ　常設展見学会、第1段目「…松の廊下・城書院」は「…松の廊下・白書院」に訂正します。

会員証のデザインが新しくなりました。

設立4年目の2004年度から、友の会会員証がデザイン変更になりました。4月度から順次切り替えられています。

図は「江戸四季風俗絵巻」から（部分）

「入会ご案内パンフ」新訂版で登場！

「入会ご案内パンフ」2004/4新訂版（担当=総務部会）ができました。

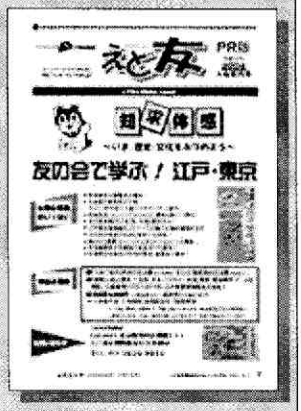
サイズ:11.5×22.3mm、見開き両面3つ折

【おことわり】挿入の会報〈えど友〉の写真が間違って「入会PR版」になっています。刊行の会報通常号はこのパンフの写真とは異なります。

改訂版『えど友PR版 入会案内号2004』

2003年から発行している、新規入会促進用パンフレットの改訂版『えど友PR版入会案内号2004』は、写真など最新内容に差し替えました。ホームページ〈えど友Web〉でもPDFファイル閲覧・印刷できます。

サイズ:A4判見開き4ページ



会員優待のお知らせ

友の会会員の皆さんにお贈りする、会員ならではの特別優待サービス。江戸東京博物館で、企画展やイベント観賞、ショッピング、新しくなった飲食施設のご利用など——お楽しみください。

企画展「発掘された日本列島2004 ―新発見考古速報」展

好評開催中

会期：6月1日(火)～7月7日(水)
月曜休館（月曜が休日の場合は翌日休館）

・図録　定価1,700円（税込）　会員10%割引（会員証提示）
【ご注意】会期中の会場出口物販所のみで適用。
ミュージアムショップでは割引になりません。

会　員：一般250円、65歳以上120円、大専門生200円
同行者：一般400円、65歳以上200円、大専門生320円

サンクトペテルブルグ古都物語 企画展「エルミタージュ美術館展 ～エカテリーナ２世の華麗なる遺産～」

次回予告

会期：7月17日(土)～10月17日(日)
月曜休館（月曜が休日の場合は翌日休館）

・図録　定価　未定（税込）　会員10%割引（会員証提示）
【ご注意】会期中の会場出口物販所のみで適用。
ミュージアムショップでは割引になりません。

会　員：一般　650円、65歳以上320円、大専門生520円
同行者：一般1,040円、65歳以上520円、大専門生830円

●東京文化会館・関連イベント優待
◇小ホール　レクチャーコンサート2004《音楽と都市》
第2回《モスクワ&サンクトペテルブルグ》
9/17（金）19時開演　S席3,500円を3,000円に割引
◇大ホール《響の森》Vol.16　オータムコンサート
10/2（土）15時開演
S席4000円、A席3000円、B席2000円、自由席1000円を各2割引
・お問い合わせ：東京文化会館チケットサービス　☎03-5815-5452

活動に参加しよう　各部会員を募集！

事業部会＝事業の企画・運営、広報部会＝会報〈えど友〉の編集・PR活動、総務部会＝各種案内の発送・受付
ハガキに、希望部会名、会員番号、〒住所、氏名、電話、応募事由、を記載して、事務局までご応募ください。

*2004/4/1付異動で博物館の友の会担当者が、岩城紀子さんから平方（ひらかた）正昭さんに交代しました。

隔月（奇数月）刊。次号は9月1日発行
http://www.edo-tomo.jp/

江戸東京博物館友の会
会報〈えど友〉第20号
発行日　2004（平成16）年7月1日
発行　江戸東京博物館友の会事務局©
130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
Tel. 03-3626-9910
編集・制作　友の会広報部会
発行・編集人／大松聯一（副会長）　編集主幹／松原良
編集／菅沼和男、岡橋園子、佐藤幸彦、小柳英二郎、大野晴美、斉藤美香子　レイアウト・版下制作／巻渕彰

平成15年度 収支決算書 〔平成15年4月1日～平成16年3月31日〕

●収入の部

（単位:円）

費目	15年度予算	15年度実績	差異(予算-実績)	備考
会費	3,440,000	3,848,000	-408,000	会員数:予算860名、実績962名
事業収入	880,000	1,091,530	-211,530	古文書講座、内覧会参加者の増加
受取利息	100	11	89	
小計	4,320,100	4,939,541	-619,441	
前年度繰越金	2,515,865	2,515,865	0	
合計	6,835,965	7,455,406	-619,441	

●支出の部

	費目	15年度予算	15年度実績	差異(予算-実績)	備考
事務局費用	アルバイト料	200,000	241,500	-41,500	継続・入会管理、会員への通知作業など
	会議費	20,000	7,868	12,132	湯茶費用
	交通費	5,000	0	5,000	
	切手・ハガキ代	350,000	576,120	-226,120	会員への連絡、更新手続きなど郵送費
	事務用器具備品費	50,000	0	50,000	
	事務用消耗品費	100,000	37,078	62,922	事務用品など
	印刷費	680,000	221,550	458,450	封筒印刷代(入会パンフ印刷代は次期)
	印紙代	5,000	0	5,000	
	振込手数料	90,000	68,150	21,490	会費払込料負担金、銀行手数料
	小計	1,500,000	1,152,626	347,374	
事業活動費用	会議費	400,000	238,991	161,009	会員懇親会、3部会合同会議費用
	講師謝礼・交通費	1,200,000	954,837	245,163	セミナー・講座講師車代
	通信・郵送費	1,650,000	1,238,204	411,796	会報・ニュース発送費、HP維持費など
	器具備品費	50,000	0	50,000	
	消耗品費	200,000	358,856	-158,856	写真、カセット代、投稿お礼、講座材料費
	会報等印刷費	480,000	427,040	52,960	会報・PRチラシなど印刷代
	会議室使用料	250,000	129,750	120,250	会議室賃借料
	保険料	10,000	39,000	-29,000	講座・見学会傷害保険料
	内覧会チケット代金等	200,000	205,530	-5,530	内覧会チケット・図録負担費
	予備費	400,000	450,030	-50,030	10周年記念品代、会員実態調査費用
	小計	4,840,000	4,042,238	797,762	
費用合計		6,340,000	5,194,864	1,145,136	
基金(記念事業積立金)		0	100,000	-100,000	将来の記念事業に対処する積立計上
支出合計		6,340,000	5,294,864	1,045,136	
次年度繰越金		495,965	2,160,542	-1,664,577	
合計		6,835,965	7,455,406	-619,441	

資産負債書

〔平成16年3月31日現在〕 （単位:円）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	44,731	前受会費	28,000
銀行預金	1,595,731	基金	100,000
郵便局振替口座	648,080	次年度繰越金	2,160,542
計	2,288,542	計	2,288,542

基金

〔平成16年3月31日現在〕 （単位:円）

科目	金額
記念事業積立金	100,000

備品一覧表

（注)資産計上なし 〔平成16年3月31日現在〕 （単位:円）

番号	品名	数量	取得年月日	取得金額	備考
1	携帯デジレコーダー	1	平成13.11.12	29,247	東芝製
2	デジタルカメラ	1	平成14.10.11	65,404	オリンパス製

別冊

平成16年度 事業予算書　〔平成16年4月1日～平成17年3月31日〕

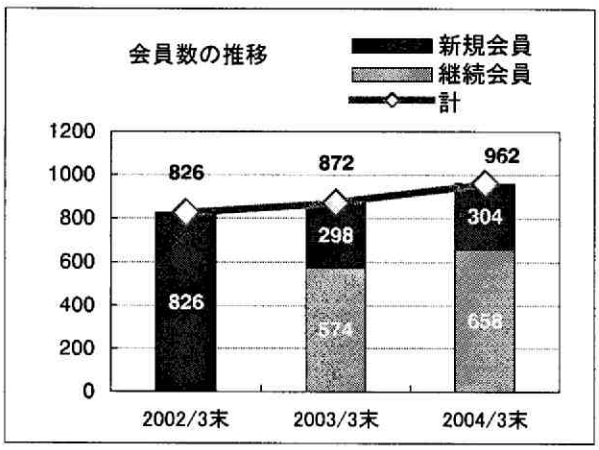
●収入の部

（単位:円）

費目	16年度予算	15年度実績	増減(予算-実績)	備考
会費	4,000,000	3,848,000	152,000	継続700名+新規300名=1000名
事業収入	1,275,500	1,091,530	183,970	セミナー、古文書講座、内覧会など参加費
受取利息	20	11	9	
小計	5,275,520	4,939,541	335,979	
前年度繰越金	2,160,542	2,515,865	-355,323	
合計	7,436,062	7,455,406	-19,344	

●支出の部

	費目	16年度予算	15年度実績	増減(予算-実績)	備考
事務局費用	アルバイト料	400,000	241,500	158,500	入会管理、行事参加通知作業など
	会議費	20,000	7,868	12,132	湯茶費用
	交通費	5,000	0	5,000	事務局行動費
	切手・ハガキ代	600,000	576,120	23,880	会員への事務連絡費用
	事務用消耗品費	50,000	37,078	12,922	事務用品など
	印刷費	890,000	221,550	668,450	封筒・入会パンフレット・会員証印刷費
	振込手数料	80,000	68,150	11,490	会費払込料負担金、銀行手数料
	小計	2,045,000	1,152,626	892,374	
事業活動費用	会議費	350,000	238,991	111,009	会員懇親会、3部会合同会議
	講師謝礼・交通費	1,500,000	954,837	545,163	セミナー・講座講師車代、行事補助金
	通信・郵送費	1,400,000	1,238,204	161,796	会報・ニュース発送費、HP維持費など
	器具備品費	50,000	0	50,000	ハンディマイク購入
	消耗品費	200,000	358,856	-158,856	写真代・テープ代など
	会報等印刷費	460,000	427,040	32,960	会報、PRチラシなど印刷費
	会議室使用料	200,000	129,750	70,250	会議室等賃借料
	保険料	50,000	39,000	11,000	講座・見学会傷害保険料
	内覧会チケット代金等	250,000	205,530	44,470	内覧会チケット代差額
	予備費	100,000	450,030	-350,030	不測の予備費
	小計	4,560,000	4,042,238	517,762	
費用合計		6,605,000	5,194,864	1,410,136	
固定資産(器具備品)		300,000	0	300,000	ノートパソコン購入
基金(記念事業積立金)		100,000	100,000	0	将来の記念事業に対処する積立計上
支出合計		7,005,000	5,294,864	1,710,136	
次年度繰越金		431,062	2,160,542	-1,729,480	
合計		7,436,062	7,455,406	-19,344	



会員数の推移　(2004/3末現在)

	2002/3末	2003/3末	2004/3末
a.新規会員数	826	298	304
b.継続会員数	0	574	658
c.計	826	872	962
新規率(a/c)	100.0%	34.2%	31.6%
継続率(b/前年度c)	—	69.5%	75.5%
伸び率(c/前年度c)	—	105.6%	110.3%